

離島の振興を促進するための三豊市における産業の振興に関する計画

平成31年3月22日作成

香川県三豊市

1. 計画策定の趣旨

三豊市は香川県の西部に位置し、愛媛県や高知県にも近い位置にあります。北東部は象頭山（琴平町）、大麻山、弥谷山などに接し、南東部は讃岐山脈の中蓮寺峰、若狭峰、猪ノ鼻峠、六地藏峠などを境に徳島県に接しています。北西部は、瀬戸内海に突き出た荘内半島があり、その南部には、砂浜の美しい海岸線が続いており、粟島、志々島、鳶島などの島しょ部もみられます。中央部には三豊平野が広がり、東部から西部に向かって財田川、東部から北部に向かって高瀬川などの河川が流れ、豊かな田園地帯を形成しています。

三豊市の人口は65,524人（平成27年国勢調査時）、総面積は222.70㎢で香川県全体の約12%を占めています。また、離島振興対策実施地域として、粟島（216人、3.68㎢）と志々島（18人、0.59㎢）の塩飽諸島の2島が属しており、その人口は234人となっています。

交通の面においては、北東から南西方向に高松自動車道、国道11号、377号、JR予讃線が走り、南東部には、南北に国道32号、JR土讃線が走っており、幹線交通軸を形成しています。自動車道については、高松自動車道のさぬき豊中インターチェンジ、三豊鳥坂インターチェンジを有しています。さらに、JR高瀬駅、詫間駅には、特急電車が停車するほか、土讃線の分岐点であるJR多度津駅、高松空港など交通の結節点にも近く、四国における交通の要衝に近接した恵まれた交通条件を有しています。

このような環境の中、三豊市は合併発足後の平成21年に少子高齢化や地方分権の推進に向け、効率的な行政運営に努め、自主・自立を基本理念とする三豊市新総合計画を策定し、将来像を「豊かさ“をみんなで育む市民力都市・三豊”とする中で、雇用や定住の促進施策等に取り組んでいます。

しかしながら、特に島しょ部（粟島・志々島）においては、過疎化と高齢化が進んでおり、平成17年には379人いた島しょ部人口は、平成27年には234名となり、今後も本土側以上に過疎化や高齢化が進行すると推測されます。

そこで、本市においては本土と同様に島しょ部の住民が安心して暮らせることを目的に、平成25年度から平成34年度を対象期間とする「三豊市離島振興計画」を策定し取り組んでいます。

本計画は、三豊市の離島における産業の状況を把握し、課題解決に取り組むべく、地域資源を生かした産業の振興に関する方針を示します。

(離島における推移)

区分	面積 (km ²)	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年	
		人口	高齢 化率	人口	高齢 化率	人口	高齢 化率	人口	高齢 化率
粟島	3.68	415	58.8	349	72.2	289	76.5	216	82.9
志々島	0.59	44	93.2	30	96.7	24	66.7	18	72.2
計	4.27	459	62.1	379	74.1	313	75.7	234	82.1

※各年国勢調査数値(単位:人・%)

2. 計画の対象とする区域

本計画の対象となる地域は、本市離島振興対策実施地域である塩飽諸島の粟島、志々島とします。

3. 計画期間

本計画の計画期間は、平成31年4月1日から平成36年3月31日まで。

4. 対象地域の産業の振興の基本的方針

(1) 地域の特徴

粟島と志々島は本市北部に位置し、瀬戸内海の備讃瀬戸一帯に広がる塩飽諸島に属しており、両島とも島全体が瀬戸内海国立公園に含まれています。

気候は温暖でかつ寡雨である瀬戸内式気候であり、冬季の積雪、降霜はほとんど見られません。粟島は本土より船で15分、志々島は20分と比較的本土に近く、隔離性は高くはありません。

江戸時代には、海上交通の要衝として、北前船の寄港地として栄えましたが、現在は人口減少、高齢化が進んでいます。

(2) 産業の動向

当地域の推移をみると平成27年国勢調査では、就業者数が41人となっており、これは平成17年の119人に比べ65.5%の減少となっています。産業別にみると第1次産業の就業者が13人、第2次産業が2人、第3次産業が26人となっています。

産業の構造としては、2島とも従来より農漁業を中心とした第1次産業が盛んです。また、粟島においては宿泊業を中心とした第3次産業の割合が高いのも特徴となっています。

【産業別就業者数】

	平成 17 年			平成 22 年			平成 27 年		
	第 1 次 産業	第 2 次 産業	第 3 次 産業	第 1 次 産業	第 2 次 産業	第 3 次 産業	第 1 次 産業	第 2 次 産業	第 3 次 産業
粟 島	47	3	67	17	5	38	13	2	22
志々島	0	0	2	5	0	3	0	0	4
合 計	47	3	69	22	5	41	13	2	26

※各年国勢調査数値（単位：人）

（3）産業の現状と課題

農業については、ほとんどがいも類、野菜、果樹等を基幹作物とする畑作農業が中心ですが、経営規模は零細であり、地域経済における農業の比重は相対的に低くなっています。近年は、その温暖な気候を利用し、花卉や園芸作物等の生産振興を進めてきましたが、価格の下落、燃料費の高騰、労働力不足などにより、その衰退が進んでいます。

畜産業、林業は経営的な取り組みがなされていません。

水産業は、刺網漁と養殖が中心です。漁業協同組合の組合員は40歳代以下の就業者が若干はいますが、70歳代以上の組合員が6割を占めており、高齢化が著しく、担い手不足が深刻な課題となっています。

第3次産業は、卸売小売業、飲食店、宿泊業が中心となっています。粟島は粟島海洋記念館や海ほたる、アート作品、志々島は県指定天然記念物である大楠が呼び水となって観光客が訪れてはいますが、宿泊業同士の組織化などはなされていません。

5. 産業の振興を対象とする事業が属する業種

本市における産業振興の対象とする事業が属する業種は、農林水産物等販売業、製造業、旅館業、情報サービス業等とします。

6. 事業の振興のために推進しようとする取組・関係団体等との役割分担

（1）三豊市が実施する取組

農業については、高齢者であっても楽に作業できる作物の栽培など農作業の省力化を進めながら、付加価値の高い作物の導入によりその振興を図ります。特に、島の特性を生かした作物の開発やブランド化、他産業との連携による事業展開のほか、優良農地の維持確保のために耕作放棄地対策や有害鳥獣対策にも取り組みます。

本地域の主要産業である水産業については、刺網漁、養殖が中心です。今日、水産資源の激減による漁獲量の減少や漁業環境の悪化、魚価の低迷、担い手の減少など課題は多く抱えているのが現状です。こうした課題を少しでも改善し、若い就業者を増やしていくために、水産業振興の中心となる漁業協同組合と連携しながら、漁港、漁場の整備や経営体の育成、経営体制の強化をはじめ、水産業の振興に向けた積極的な各種取り組みを進めます。

島の産業については、農・水産業ともに既存の商品に産地や島ならではの付加価値を付けた商品の開発やブランド化など、新たな流通の確保、販売形態の支援などを行います。

第3次産業については、宿泊施設同士の連携による観光振興、特に本地域内で核となる「ル・ポール粟島」については、海ほたるショーや手旗信号・ロープワークなど既存の体験学習等と合わせた利用促進やリピーター増加に向けて、補助制度等を使用しながらハード、ソフト両面で整備を図ります。

また、対象地域における設備投資等の租税特別措置を周知し、活用を推進することで、企業誘致や設備投資を促します。

(2) 香川県が実施する取組

三豊市と連携して、国税に係る租税特別措置や県税の課税免税措置の周知を図り、設備投資を促すとともに、企業立地促進法に基づく、助成や融資制度などの支援を行います。

(3) 漁業協同組合が実施する取組

漁業者への経営改善や技術指導による経営安定に向けた取組を行います。

(4) 商工会が実施する取組

島内商工業者及び島で創業を計画している事業者に向けた、創業相談や経営改善に向けた、相談事業を行います。また、経営に関するセミナー等への参加を促します。

(5) 観光交流局が実施する取組

島にある観光資源を広くPRします。また、体験型の観光プランの検討を行います。

7. 計画の目標

計画における製造業、農林水産物等販売業、旅館業、情報サービス業等における機械・装置、建物・附属設備、建築物の設備投資を支援することで、下記目標の達成を目指します。

区 分	新規設備投資件数	新規雇用者数
製 造 業	1 件	1 人
農林水産物等販売業	1 件	1 人
旅 館 業	1 件	2 人
情報サービス業等	1 件	1 人